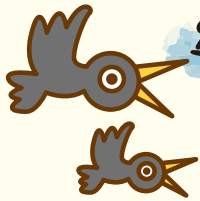
とよはしむかしむかし

牟呂八幡様の鐘

（牟呂町）



むかしむかし…
牟呂に一人の漁師が住んでいました。
この日も漁にはげみ、ふと気づくと、岸辺に１００羽ものカラスが!!
「何があるんだろう」と近づくと、カラスが「ムロハチマン、ムロハチマン」と鳴いているではありませんか。
漁師は驚き、岸に上がると、小さな釣り鐘にカラスが群がっています。「こりゃあ、牟呂八幡様に奉納せんといかん。」と、漁師は村人と、境内に釣り鐘を安置しました。
次の日の事です。漁師が様子をみにいくと何と鐘の回りに青々とした淵ができ、龍が悠然と泳いでいます。
「神様のお使いだ。」と「八幡様の龍」はまたたく間に知れ渡りました。
龍はいつともなくいなくなり、鐘は紛失してしまいましたが龍の絵が画かれた鼓楷が今も使われているそうな。

わんかせ岩

（中原町）

むかしむかし…
豊橋の東のはずれにある立岩のそばで若者が芋煮をしていたそうな。すると山のほうから「おれにも芋煮をくれろ～」と立岩の神様の声が！
「やってもいいが椀がないぞ～」と返事をしながら立岩に近づいてみると前の畑に大きな岩があり、その上に立派なお椀がおいてありました。
若者はそのお椀に芋煮をいれておそなえしました。
それ以来、必要なお椀の数を書いた紙を岩の上に置いておくと、次の日にの朝には立派なお椀が置いてあるそうな。
そして、いつしかこの岩を「わんかせ岩」と呼ぶようになりましたとさ。

鐘ケ淵の伝説

（賀茂町）

むかしむかし…
賀茂村長者の娘が若者に恋したそうな。
若者は娘の思いを何とか諦めさせようと、「権現山の鐘を私のところまで持ってきなさい。鐘と共にそなたを妻に迎えよう。」と云ったそうな。
娘は若者と一緒になりたい一心で、権現山に駈け登り、鐘を引き下ろし、和里淵まで降りて来たが深みに足をとられ、鐘と共に川底深く沈んでしまいました。それ以来、この淵は鐘ケ淵と言われているそうな。昔は鐘ケ淵は石巻村ではなく賀茂村であったげな。

だいだらぼっち

（多米町）

むかしむかし…
「だいだらぼっち」と呼ばれる大男がおりました。
野に出ては作物を荒らし、村人たちに嫌われておりました。ある日、何を思ったのか、「だいだらぼっち」は、富士山をもっと高くしてやろうと、琵琶湖を掘ってその土をモッコ（土を運ぶ網状の道具）に入れてかつぎあげ、多米の峠を越えようと、「ヨイショ!!」と峠をまたいだ。
そのとたん、峠は、大きな音を立てて崩れてしまいました。村人たちはびっくりぎょうてん。
山の麓には、だいだらぼっちの大きな足あと。
そこには、いつの間にか、水がたまり湿原になりましたとさ。

☆参考文献：とよはしの民話、豊橋のむかしばなし　など